

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報(第12号)、大豆作情報(第9号)」について(送付)。

このことについて、下記のとおり「稲作情報(第12号)、大豆作情報(第9号)」を送付しますので、業務の参考にしてください。

この情報はホームページ

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

にも随時公開しています。

杵島農業改良普及センター

検索

気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R1 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R1 (hr)	平年比 (%)
8月	4	27.4	26.5	-0.8	32.6	30.0	-2.6	23.8	23.9	0.1	29.5	86.5	293	31.7	16.8	53
	5	27.0	25.3	-1.7	32.2	29.2	-3.0	23.2	22.3	-0.9	30.8	95.5	310	31.5	16.6	53

8月4半旬の気温は平年並み。しかし、降水量は8月20日の降雨の影響で平年比293%と多く、日照時間についても晴れ間が少なかったため平年比53%と短く推移した。

8月5半旬の気温は平年より2ほど低く推移した。降水量は平年比310%と多く、日照時間も平年比53%であった。

8月27日は102.5mm、28日は299.5mmの大雨を記録している。

天候の回復を待ち、安全を最優先に作業を行うよう、注意をお願いします。

1. 情報田の生育状況 (調査日: 8月27日)

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概要
さがびより (武雄市橘町)	本年値	91.1	246	14.0	35.9	葉齢、草丈は平年並み。茎数は平年よりかなり少ない。葉色は平年より濃い。 幼穂長は214mm 出穂期は8月30日頃の予想 9月にずれ込む可能性あり 止葉が抽出されました
	平年値	90.9	364	14.3	32.6	
	平年比(差)	100%	68%	+0.3	+3.3	

夢しずく(武雄市橘町)

出穂期は8月16日(平年より2日遅い)

ヒノヒカリ(白石町新明)

出穂期は8月26日(平年より1日遅い)

注) 平年値はH21~H30の10年間の平均。なお、ヒノヒカリについてはR1より耕作者が変更したため、平年値は参考値とする。

2. 一般田の生育状況及び今後の管理

幼穂形成期以降は、出穂期まで最も多くの酸素を消費する時期です。このため冠水を受けた圃場では葉先が少しでも早く水面から出るよう、圃場内の排水を促してください。また、圃場用水の交換を行い、根の機能維持につとめましょう。

今後は、水を一番必要とする時期ですが、中干しが不十分な圃場では倒伏防止のために、落水期間をやや長めにした間断灌水を行い、徐々に土を固めるようにしてください。

1) 夢しずく

乳熟期になっていることから、間断灌水を行い、根の活力維持に努めてください。特に、湛水状態が続くと、土壌が還元化しやすくなるので、排水し間断灌水に努めましょう。また、圃場の地耐力が不十分(土壌が軟弱)な場合は、落水期間を長く取って稲の支持力を高め、倒伏防止に努めてください。

2) ヒノヒカリ

現在、穂揃い期です。登熟期間の高温乾燥で、心白・乳白等が発生し品質の低下にもつながるため田面が乾燥しないよう、間断灌水に努めてください。

なお、情報田の出穂期は8月27日でした(移植日6月17日)

3) さがびより

現在、穂ばらみ期です。止葉が完全に抽出し、出穂期は8月30日~9月1日と見込まれます。

今後は、**稲が最も水を要求する時期です**。湛水する必要はありませんが、圃場内でいちばん高いところの足跡だけに水が残ったら入水するような水管理を行いましょう。(足跡に水が入っている間は十分に水がある状態です)。

4) 病害虫

防除時期となっているものの、降雨が続いていることから、天気予報の情報を確認し、半日程度降雨のない時期を見計らって、薬剤散布に努めてください。(液剤散布では薬剤が乾いていれば十分効果が見込め、粉剤では殺虫剤で4時間程度、殺菌剤で8時間程度、降雨がなければ十分な効果が見込めます)

いもち病

葉いもちの発生が増加しており、今後も曇雨天が続くと予想されていることから、穂いもちの多発が懸念されるため、穂ばらみ期、穂揃期の防除を徹底する。穂ばらみ期の防除以降も症状が広がっている場合は、臨機防除を行ってください。

紋枯病

7月下旬より発生が散見される圃場があります。上位葉へ進展すると、登熟収量と品質に影響を及ぼしたり、倒伏を助長します。紋枯病菌は風通しの悪い圃場条件や、高温で多湿な気象条件を好むので、発生が多い圃場では薬剤防除に努めましょう。

ウンカ類

本年はトビロウンカの飛来量が多く、今後、普通期水稻で発生が増加し、被害を生じる恐れが高まっています。トビロウンカと競合関係にあるセジロウンカの飛来量が少なく、本虫の増殖にやや好適な条件となっており、被害を生じる恐れが高まっていることから、今後の本田防除の適切な実施が極めて重要です。圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底してください。

8/20に佐城管内にて多発生した圃場が見られたようです。局所的ではありますが、引き続き注意してください。

コブノメイガ

本種に対しては、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)の防除効果が最も高いです。田植え時期、地域、水稻の品種等の違いによってコブノメイガの発生量は異なる(晩生品種で葉色の濃い圃場で発生が多くなる)ので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで出穂期に被害葉が20%を超える恐れがある場合には、防除対策を講じてください。

カメムシ類

出穂後畦畔除草を行うと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長します。すでに出穂10日前を過ぎていますので、畦畔の除草は避けてください。発生が懸念される早生品種および山麓部や河川敷付近等、例年発生の多い圃場では防除の徹底に努めてください。

その他

中晩生の品種では、曇雨天が続き、籾枯細菌病等の穂枯れが発生しやすくなっているため、出穂期の防除を実施する。白葉枯病の発生がみられた場合は、周辺への伝染を防ぐため、発病株の周辺に入らない。

4. 大豆作情報

播種時期毎の生育状況は、7月上中旬播きで出芽揃いが良好であった圃場では開花期を迎え、7月下旬～8月上旬播きの圃場では本葉5～8葉期となっています。播種時期によって生育差があるため、圃場ごとに生育ステージを確認し、適期管理に努めてください。

1) 冠水対策

開花～幼莢期は冠水の影響が最も大きいことから、影響圃場から速やかに雨水が退水するように、排水路の整備を行い、排水に努めてください。茎葉が汚れている場合は清水で洗い流し、茎葉が伸長し倒伏した場合は引き起こし、可能であれば軽く土寄せを行いましょう。

2) 培土

まだ開花していない晩播の圃場では、天候が回復次第、培土を行って胚軸からの新根発生(不定根)を促し、生育を確保してください。培土が出来ずに開花期を迎えた場合は、額縁明渠や間隔において(数条おきに)明渠を実施し、排水を促進しましょう。

3) 今後の管理

(1) 病虫害防除

ハスモンヨトウ

- ・農業技術防除センターの8月下旬予想発生量では、現在の発生量は少ないものの今後1か月の気温は高い予想となっており**平年よりやや多い(前年並)**となっています。
- ・白変葉が散見された頃が防除適期であるため、遅れずに薬剤防除を行ってください。
- ・薬剤の防除効果は、粉剤より液剤の方が高く、今後は大豆の生育量が大きくなるにつれ、茎葉にまんべんなく薬剤が付着するように丁寧な散布を心がけましょう。

カメムシ類

- ・発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)と予想されております。ハスモンヨトウ同様、**多発生**の条件となっているため各圃場でカメムシ類の発生状況を確認し、莢の伸長初期から子実肥大中期に防除を行ってください。

(2) 肥培管理

- ・7月下旬以降の遅播き圃場で、**葉色の濃い圃場では**、開花期以降に根粒菌から窒素供給が不足し、莢へ十分に養分が供給できず、収量低下に繋がる恐れがあります。生育が極端に劣る圃場では表1を参考に追肥又は花肥(窒素で8kg/10a)を施用しましょう。(施用効果は、追肥としては、できるだけ早目に実施することが有効)
- ・また、追肥を施用後は肥料効率を高めるために、可能であれば開花期前までに、培土等を実施してください。
- ・ただし、培土は、開花期を迎えている場合は実施しないでください。根の断根による落花になりやすい。

表1. 花肥の目安(大豆の葉色が濃い圃場)

播種期	7月下旬播き
花肥の時期 (開花終期～着莢期)	9/1～9/10頃
花肥の施用量 (kg/10a)	硫安：40kg/10a もしくは 尿素：20kg/10a (窒素で8kg/10a)

注1) 肥料ヤケを防ぐため、葉が濡れていないのを確認して施用してください。

注2) 基肥(化成肥料)や追肥を施用した圃場では、根粒菌からの窒素供給量が減りますので必ず「花肥」を施用してください。